

足羽高校の多文化共生科における 外国人生徒と日本人生徒との 協働的な学びについて

磯野心吏,小園ラウラ,
クリザニフスキー・ナザール,水野愛乃

2024.6.17.
福井県立足羽高校
Asuwa International Society (AIS)

目次

自己紹介

Asuwa International Society (AIS)としての意見

入学当初の課題と感想

生徒の感じた学校の長所

英語の合同授業(1年生5月～2年生7月)

AIS(1年生9月～)

クラス希望制の英語の授業(2年生2学期～)

高校への提案・要望

自己紹介



入学当初の課題と感想

入学当初の課題

「外国人・日本人生徒間でのコミュニケーション不足」

→入学当初からクラスごと、母語ごとのグループにある程度分かれる。

1年生時は合同授業やグループワークでも日本人・外国人間の会話は、少ない。

生徒の入学当初の感想

- ・入学当初はまだお互いに話しかけに行くのに違和感があった。
- ・あまり 4、5 組で関わる機会の少なかった当初は外国に対する偏見があった。

生徒の感じた学校の長所

生徒の感じた学校の長所

「多様な言語を話す環境」

→日本語以外にポルトガル語、英語、中国語など複数の言語が話される
環境

「多様な考えをもつ生徒」

→合同授業などでの発表で異なる文化圏の考え方を学べる



こういった長所を伸ばせるような環境づくりが理想

英語の合同授業 (1年生5月～2年生7月)

英語の合同授業（１年生５月～２年生７月）

- ・ ４組と５組で英語の授業を合同で実施
- ・ １学期後半はペアワーク

→お互いの国の文化を調べて英語で教え合う形式

- ・ ２学期はクラスでの語劇
- ・ ３学期以降はペアワーク

→教科書の内容 (**SDG**s や外国の歴史など) から踏み込んだ質問をペアで解いたり、自分たちで英語の授業を作成してみる

合同授業での生徒の感想

- ・過半数がペアワークに取り組んでいたが、一人ずつで取り組んでいたペアもあった。
- ・1年1学期～2学期は生徒のモチベーションも高く、ペアワークに積極的だったが、3学期以降は一部生徒間の不和も見られた。
- ・仲がいい人とは国籍問わずとことん話していた。

Part 1

会場にいる 4 人の感想

「英語の合同授業でよかったところは何か？」

AIS (1年生9月～)



AISの活動例(1年9月～2年7月)

「ブリガデイロ販売」
ブラジルのお菓子
ブリガデイロと紅
茶を販売

「城山ウィキペディア」
学校近くの城山のウィ
キペディア記事作成

「清明公民館夏祭り」
ブラジルのアイス販売
日本の遊び紹介

AISの活動で得たもの

「国籍を越えた友人」

→活動を通して、共通の目標を持ってメンバー同士で協力することで、国籍を越えて仲のよい友人ができた

「異文化に対する受容の精神」

→異文化交流やブラジルの食文化普及活動などを通して、異文化に対する精神的な許容範囲が広がった

AISの活動で得たもの

「実践・行動力」

→AISでの活動を通してイベントを行うことで、実行への心理的な負担が消えて物事に取り組みやすくなった。

「自分とそれぞれの強みの認識」

→AIS内で自分がどのように貢献できるかを自分のバックグラウンドと照らし合わせて考えるようになった。

Part 2

会場にいる 4 人の感想

「AISのよかったところは何か？」

クラス希望制の英語の授業 (2年生 2学期～)

生徒へのインタビュー（実施：クラス希望制前）

質問1：クラス（3-4、3-5、英語（クラス希望制）時のクラスの仲はどうか」

（回答者：生徒5名（内1名ブラジルルーツ、2名韓国ルーツ、1名ウクライナルーツ。3-4（3名）、3-5（2名））

生徒A「3-4は複数のグループができていて、そのグループのメンバー同士は仲が良い。総合英語時は普通に喋ろうと思えば喋ることができるが特段仲が良いわけでもない。」

生徒B「1，2年次と比べ全授業においてペアワークやグループワークが減ったためクラス内での会話も減ったと思う。」

生徒C「グループの派閥争い的なものがある。特に女子。」

生徒D「5組は喧嘩が多かった。泣いているところを見たこともある。」

生徒E「仲が良いというより普通。」

生徒に対するインタビュー (実施：クラス希望制前)

質問 2：学校、クラス、授業への要望・意見

(回答者：7名 (内2名ブラジルルーツ、2名韓国ルーツ、1名ウクライナルーツ))

生徒A、B、C「授業中にうるさい生徒とクラスを分けてほしい。」

生徒D「3-5は日本語コースなのだから、クラス内ではポルトガル語ではなく日本語で話してほしい。」

生徒E「3年生が1年生と関わる機会があったら良いと思う。」

生徒F「人数の多い英語のクラスだと自分の英語力を活かせない。」

生徒G「英語の授業でのクラス分けは差別のように感じられる。」

クラス希望制の総合英語の授業

- ・ 2年生2学期から発表、標準、少人数指導の3クラスに分割したクラス希望制の授業を開始
- ・ 希望制にした2年生2学期から、英語や日本語の成績が上昇

2022年度(令和4年度)入学生(現3-4,3-5)の 英語のテストの平均点

	1年 1 学期	1 学期	2 学期	2 学期	3 学期	3 学期	2年 1 学期	1 学期	2 学期	2 学期
	中間	期末	中間	期末	中間	期末	中間	期末	中間	期末
4組英語平	48	54	52	54	52	50	49	49	45	60
5組英語平	40	47	58	62	54	48	49	53	45	66

	2022.5	2023.3	2023.4	2024.3
Student No.1	92	96	50	62
2	95	92	70	72
3	88	82	27	49
4	62	74	25	39
5	62	82	24	35
6	9	33	7	30
7	94	93	71	73
8	85	94	55	65
9	60	72	34	44
10	66	72	39	43
11	38	63	30	44
12	87	87	54	66

2022年度(令和4年度)入学生
(現3年5組)の日本語テストの
個別の素点

1年5組(2022年度)の時にはN4、
2年5組(2023年度)の時にはN3
レベルのテストの結果

クラス希望制に対する感想

- ・生徒自身が仲の良い友人と同じクラスで授業を受けるため、衝突は起こりにくく、ストレスフリーで過ごしやすい
- ・一方でインタビューのとおり、「クラス分けは差別的に感じられる」という意見も

AIS生徒間での食い違い

- ・メンバーが減っていき、国籍に関係なくお互いを理解し合えるもの同士になっていった。

時間を守ることに對する意識の違いや、その他の性格の違いが原因。全員が仲良くなったというわけではない。

→多くの衝突は「個々の性格の違い」が原因でもあると学んだ。性格や考えが多様である状態で、全員が互いに相手に共感するのは困難であると考える。

AISの活動参加人数推移

	2022.9 校内文化祭	2022.11 ブリガディオ販売	2023.3 城山ウィキペディア	2023.7 清明公民館夏祭り	2024.3あそびMIXフェス
AIS活動参加人数	3年10 2年14	3年6 2年9	3年4 2年7	3年4 2年6	3年4 2年6
AIS活動に新しく加わった人数	0	0	0	1年14	1年6

生徒一人ひとりがいろいろな人と関わり、個人の性格の違いを学び、出身国・地域に関係なく仲良くなることで、多様なバックグラウンドの人が生きやすい環境が実現される。

高校への要望・提案

AISの考える多様性・多文化共生

AISの考える多様性・多文化共生は

「国籍や人種などの差異だけでなく、過去の経験やバックグラウンド、考え方・性格の違いが多様であること。その状態が維持され、生徒が安心して過ごすことができる環境」

それを踏まえて.....

AISとしての意見

「真に多様性のある学校では全員がそれぞれの違いを受け入れ、全員と共感し合うことは困難」

よって重要なのは

「色々な人と関わる中で合う友人や居場所を見つけることができる環境、そして多様性を許容する環境」

高校への提案・要望

日本人・外国人生徒でのクラス分け→生徒同士のコミュニケーション不足

単に、日本人・外国人生徒が共に学ぶ→生徒の日本語と、授業で必要とされる日本語のレベルの差の問題

単純にクラス分けを採用しないシステム（一斉授業）→生徒の孤立



単位制×部活動的な（大学のゼミのような）授業

高校への提案・要望

「単位制×部活動的な授業」

- ・個々が自分に必要な授業を履修する単位制に加え、学校設定科目の範囲で教員が好きな内容の授業を開講。放課後も部活動の形で延長。
- ・英語の授業での「差別感」を生徒それぞれが違う科目を受ける単位制で解消。かつ日本語などの心配や、色々な人と関わることのできる合同授業、生徒の居場所となる部活動の利点を生かしたシステム。

高校への要望・提案

・日本語で話す環境づくり

→外国人生徒のクラスでは母語で話す人が多く、日本語を実生活で話す機会が少ない。



「多国籍なコミュニティの言語学習授業」

=多言語共生

→母語の多様な環境で、ペアワークとしてお互いに母語を教えあう授業

Part 3

会場にいる 4 人の感想

「足羽高校にやってほしいこと」

ご清聴ありがとうございます。
ございました。
